

(ご高齢者へいつでも寄り添います)

回顧録



私は昭和三十一年六月、当時の三和町松崎に四人兄弟の四男として生まれた。生家は一町歩程の耕作農家であった。私が本格的に農業との関わりを持つのは、その後二十年以上後の事となる。少年期は養老小、三和中へと進んだが、現在と異なり生徒数も多く、活気に満ちた時代を過ごした。中学での部活動では、軟式野球

**農事組合法人
『さんわ担い手組合』
代表理事 鈴木 敏雄**

シリーズ ①

志とは異なる選択 自動車整備士として一步を印す

部に所属し、キャッチャーとして二年生の夏の市大会で準優勝。秋の新人戦では優勝を果たすなど、今思い起こせば、良き時代だったと思う。高校は京葉高校へと進んだ。高校生での最初の選択肢は、部活動をどうするかだった。中学時代の延長上から考えれば、野球部となるが、私はそうしなかった。なぜなら肘を痛めていたことと、大学への進学志向もあり、学業に重きを置きたかったことに起因した。運動不足は自転車通学で補うことにした。こうした志の下に、過した三年間だったが、思い通りにならないのが人生。大学受験には失敗してしまっただけ。予備校に通い、再チャレンジの選択肢もない訳ではなかったが、そんな折、兄が自動車整備工場をやりたいとの話が動き出しており、ならば整備士が必要になるだろう、兄の力になる、これも人生一つの道と考えた私は、自動車整備専門学校へ進むことを選択した。二年間の修学期間に於いて、自動車整備に必要な技術・資格を取得し、家業となった松崎自動車整備工場の一員となった。農業の道とは、なお隔たりがあった。

【次号へつづく】

地域包括支援センター「ひまわり」

地域のよろず相談担当！

訪問記



地域包括支援センターひまわり
センター長 四方 洋平 氏

チーム8名の連携 専門パワーで臨む

Q はじめに「ひまわり」のスタッフ構成をご紹介しますか？

A 現在、男性四名、女性四名、計八名のスタッフで構成されています。内訳としては、主任ケアマネジャー一名、看護師一名、社会福祉士三名、介護保険専門のケアマネジャー二名、受付窓口となる事務員一名、それぞれ専門職としての力を発揮して頂き、チームとして活動しております。担当するエリアはど

この冬の寒波、健康寿命に少なからず影響を与えたと言われています。今まで健康だった人が、突然、脳梗塞で倒れる、或いは身体的不自由になる。こんな事例を耳にします。今、健康だから大丈夫！。本気でそうでしょうか？もし、或いは万一に備え、必要な知識を持つことが、自衛の第一歩となります。今回、こうした日常生活相談に定着する、市原市地域包括支援センター「ひまわり」を訪問し、お話を伺いました。

うなっていますか？
A 市原市の場合、地域包括支援センターは市内に八カ所あります。内「ひまわり」は、三和地区と南総北地域が受持ちエリアになります。
Q 担当地域の住民数はどれほどですか？

A 本年四月の市原市人口動態値では、三和地区で見ると一万三千五百三十六人。内、六十五歳以上の人口は五千七百一十一人です。高齢率では四二%となります。
これは、地域分けて見た高齢率で、市内二番目に高い値となっています。
Q 敷地内にあるケアハウス向日葵の入居率はどのくらいですか？
A 入居率は九十五%ほどです。ほぼ空きがない状態です。

生活全般への 総合相談機能

Q では、包括支援センターの具体的な役割についてお聞かせ下さい。
A 一口で言えば、地域生活での何でも相談窓口です。これまでは、高齢者に係る相談窓口との認識が強かったと思います。が、市原市ではこの年齢枠を外し、地域

住民の生活全般に係わる相談窓口として、地域包括支援センターを位置付けております。そのため、行政の専門機関や地域の福祉ネットワークとも連携や協力の下に活動しています。

健康ケアや 心配ことも

Q 例えばどんな相談が挙げられますか？
A 介護や医療についても勿論ですが、それ以外にも健康に対するケアや

ご近所での心配ごと、更には、先々心配になること、こんな時どうしたらいいの、何でもご相談頂ければと思います。
◎今回、お話を伺い、地域包括支援センターが介護に関する相談以外に、健康や福祉・医療や生活に関する実にさまざまな悩みや相談との窓口として、その役割を担っていることがわかりました。有難うございました。
ご相談は「ひまわり」
☎ 三三七七二二二番へ



より身近な避難所目指し

浅井小向町会 町会長 坂巻 好美



地域自主避難所/浅井小向自治会館

浅井小向町会は、昨年七月、町会自治会館を地域自主避難所として市原市に登録。同月二十六日付けにて認定証第四号を取得しました。その後、これを契機に、その後非常時に備える資機材の充実に取り組み、自家発電機の設置や避難時の間仕切り用パーテーション、衛生管理用資機材を揃えるなど、町会員の一時避難所としての佇まいを整備に力を注いで来ました。登録の切っ掛けは市原市からの書面案内も、市からの距離が問題で、より身近なところに避難出来る、これが最善です。町会役員での相談結果、登録申請致しましたが、町会員へは事後、書面での理解を頂いております。今後、避難訓練等、日常の危機管理に繋げて行ければと思っています。